

丸子宿

戦国から江戸時代の面影を歩く ● 約2km

旧東海道の面影が残る街道を歩き、東海道を通過した大名や幕府役人、文人らが訪れた泉ヶ谷を歩くコースです。宿場には本陣・問屋場などは残っていませんが、古の旅人が眺めた自然の風景や旅の雰囲気を感じて歩いてください。

- 旧東海道
- お勧め探訪コース
- 情報拠点
- 見どころ
- 案内板・説明板・マップ
- スタンプ設置場所
- 写真撮影ポイント
- 特典場所・店
- バス停
- 駐車場
- トイレ
- コンビニ
- レンタサイクル



案内人や
施設などの
情報はここに
アクセス！

連歌師・宗長

島田の有名な刀鍛冶の子として生まれ、連歌師宗祇に師事し、一休禅師で禅の修行をしました。今川家の家督騒動のなか幼少の7代目当主の氏親公を支え、戦国武将からの情報を提供し、軍事顧問のような役割を担っていたようです。また、紫屋寺の借景庭園は狼煙を確認するのに最適であり、さらに「赤目ヶ谷」「大鑪(おおたたら)」「細工所」などの地名は今川家の「赤鉄鋼」を原料に「製鉄所」のふいで鉄を精製し「兵器工場」で武器を製造したとも置き換えられ謎が深まります。

①お七里役所跡

西国の大名の中には、江戸の屋敷と領国の居城との連絡に直属の通信機関(七里飛脚)を持っていました。この役所跡は、紀州徳川家のもので、当時、江戸ー和歌山間(584km)に約七里(28km)毎の宿場に中継ぎ役所を置き、主役(お七里役)と五人一組の飛脚(お七里衆)を配置していました。飛脚には剣道、弁舌にすぐれた者が選ばれ、昇り竜、下り竜の模様の伊達半天下を着て「七里飛脚」の看板を持ち、腰に刀と十手を差し、御三家の威光を示しながら往來したようです。

普通便は毎月3回、江戸は五日、和歌山は十日に出発し、8日間、特急便は4日間で到着したそうです。県内には沼津、由比、丸子、金谷、見付(磐田)、新居に設けられていました。

※宿場絵図あり

② 丁子屋

広重の浮世絵にも登場する「とろろ汁」の店。丸子宿には「とろろ汁」を出す店が何軒もあり、多くの旅人がこれを目当てにやってきたといえます。「丁子屋付近地図」「芭蕉句碑」「十返舎十九の碑」「辰石」などがあります。

「辰石」とは、家康公が近隣より集めた駿府城の石垣の石の一つです。1976年、電話ケーブル埋設事業の際、偶然見つかり、辰年にちなみ名前をつけ丸子の縁起ものとしています。

③高札場跡

高札とは、幕府からの通達事項等を掲げる情報版で、辻札ともいわれました。宿場や村には必ず高札場が設けられ、人々に法令や定（賃金の改定なども含む）を周知させていました。丸子橋の橋詰めに復元されています。

④駿府匠宿

今川、徳川時代から受け継がれた静岡市の伝統産業と歴史をテーマに「創る、遊ぶ、学ぶ、触れる、観る、味わう」といった静岡ならではの生活文化を幅広い年齢層の方が体験出来る施設です。

●9:00～17:00 ●休／年末年始
●工芸館 有料

⑤吐月峰紫屋寺

臨濟宗のお寺。今川家六代、七代当主に仕えた連歌師宗長が京都銀閣寺を模した庭園を築き、四季の風物を眺め余生を送った場所です。“丸子富士”“天柱山”などを巧みに利用した借景庭園と庵の背景となる枯山水が国の名勝・史跡に指定されています。庵の前庭には、北斗七星を模して配置した“七曜石”や宗長が月の出るのを座って待ったという“月見石”などがあり、その月見石の背後に師の宗祇と並んで宗長の墓があります。

⑥ 觀昌院

室町時代に創建された曹洞宗のお寺。駿河一国三十三ヶ所観世音菩薩霊場の第13番札所であり、丸子宿の宿泊が混雑した場合宿泊を引き受けていた。

⑦千手觀音院

800年ほど前、奥大井小猿郷(榛原郡旧笹間村)にあった菩薩であったが、旅の僧の夢枕に立ち、泉ヶ谷観昌院に移してほしいと切望したことから移されました。一時、小猿郷の人々により戻っていたが、その間様々な災厄が起こり、再びこの地に移されました。

⑧ 觀昌院坂

丸子泉ヶ谷から牧ヶ谷へ通じる坂道。古くから間道として利用され、駿河一国三十三ヶ所観世音菩薩の13番霊場の観昌院から第14番目の耕雲寺を結ぶ「おへんろ」でした。

情報拠点：
しらい酒店

江戸時代に
宿場として制定された
頃より丸子に居を
構えていました